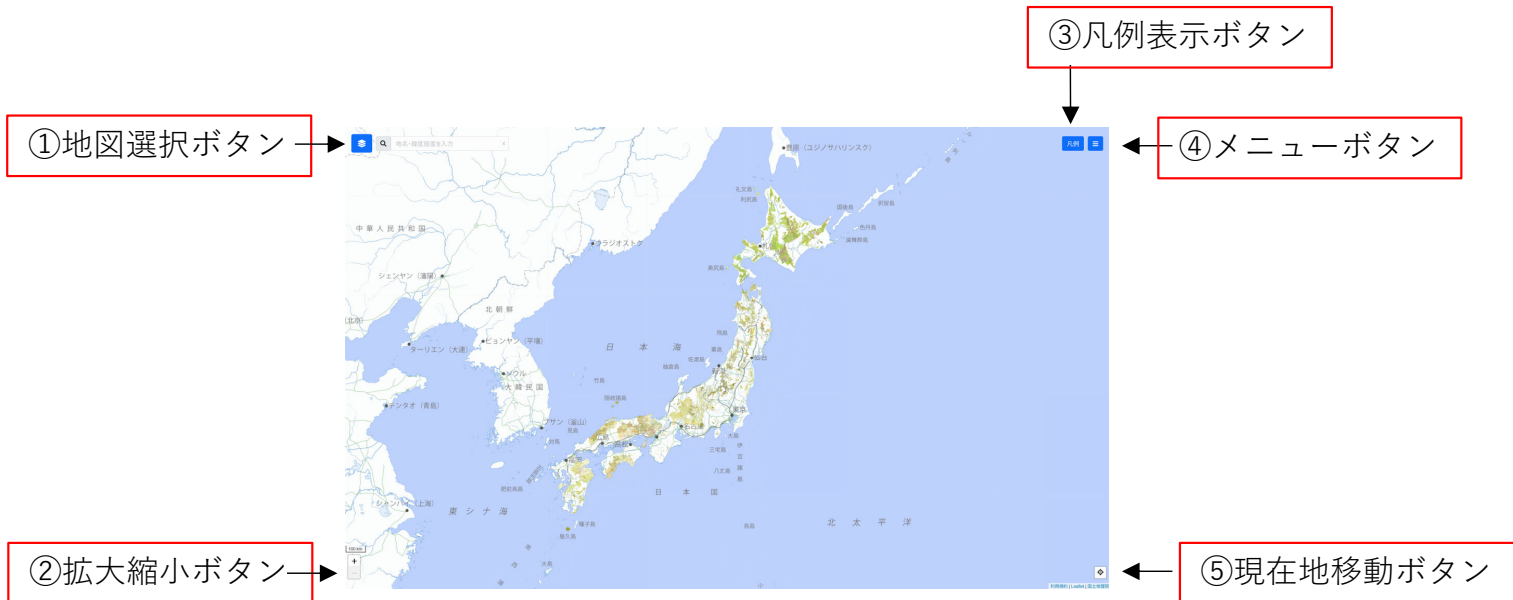


操作マニュアル

地図画面の操作方法



①地図選択ボタン

はじめにここをクリックしてみてください。 地図選択、透過率の調整などのメニューを開くボタンです。

②拡大縮小ボタン

マウスのホイールボタンで拡大縮小が行えますが、こちらでも拡大縮小することができます。

③凡例表示ボタン

画面表示エリア分だけをピックアップして凡例を表示します。詳細ボタンを押すと、別ページで凡例を表示させることができます。

④メニューボタン

3D表示はここから選択できます。また、当サイトの他のメニューへ移動できます。

⑤現在地移動ボタン

現在地に移動することができます。位置精度はPC・スマホ等の使用環境によって異なります。

地図選択画面の操作方法



①地図選択メニュー

選択ボタンを押すとその地図が表示できます。

最後に選択された図が一番表面（上）に表示されます。ただし、地理院地図は常に背景として表示されます。ここで選択された地図は下の「選択中のレイヤ」に表示されます（③）。

土壌図、土壌調査地点DB、土壌特性値、CS立体図、その他の地図が選択可能です。

○の部分をクリックすることで、各項目の表示・非表示を切り替えることができます。

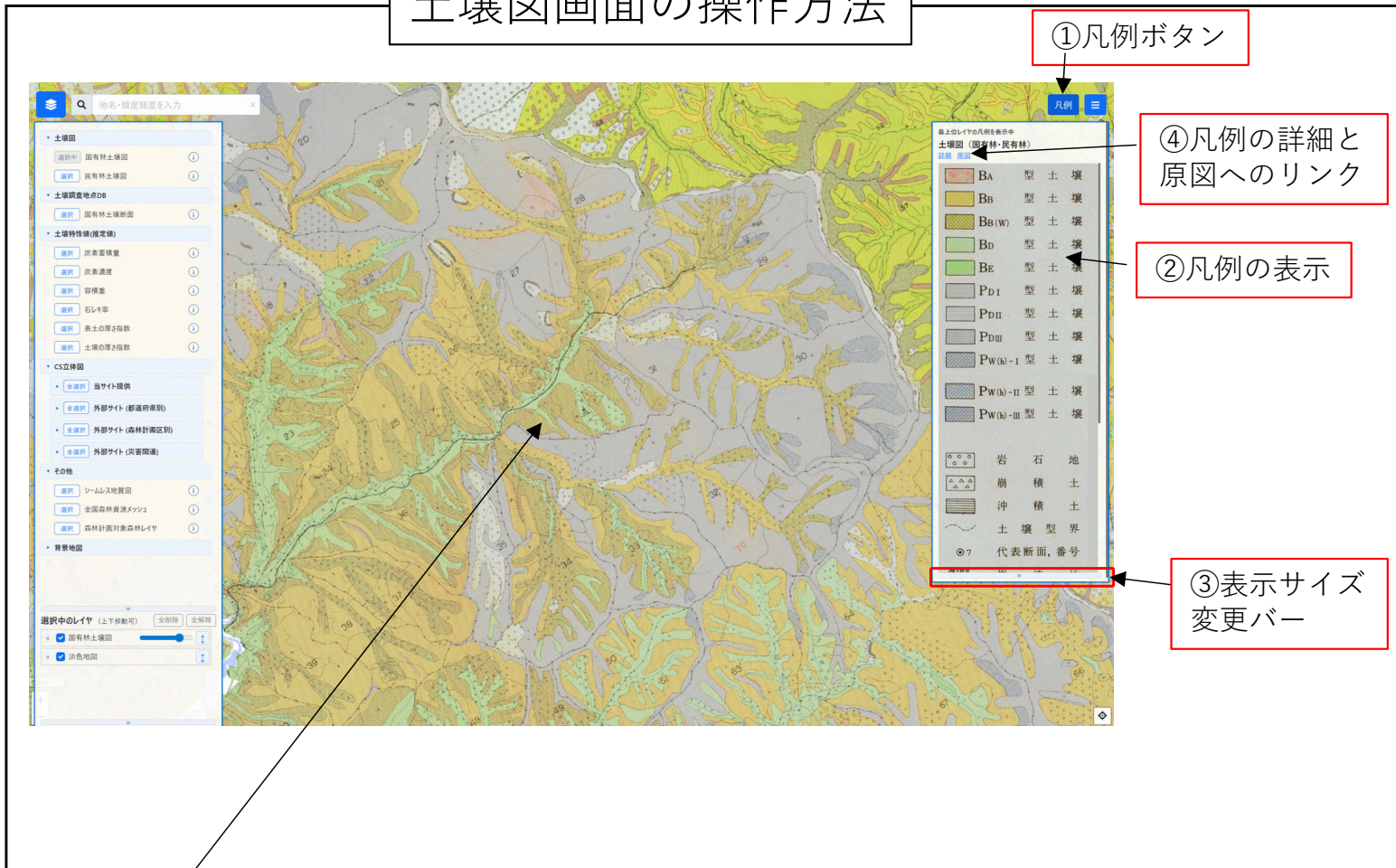
②表示サイズ変更バー

①と③のメニューの高さを変更することができます。マウスでドラッグして任意の場所でドロップすれば変更できます。

③選択中のレイヤメニュー

①で選択した地図が自動的に配置され、地図を比較するための各種操作ができます。**右端の⇅をマウスで上下にドラッグすることで、重なり順序を入れ替えることができます。**地図を非表示にしたい場合は左端にある『×』を押下するか、全レイヤーを削除するかしてください。地図名の右側の青いバーを動かすことで、透過率を調節できます。青いバーが多いほど透過率は低くなります。チェックボックスを使用して地図の一時的な表示・非表示が可能です。右上の凡例ボックスには最も上位にあるレイヤの内容が表示されます。

土壌図画面の操作方法



①凡例ボタン

表示されている地図の凡例を表示させるボタンです。地図をクリックしていない状態だと何も表示されません。

②凡例の表示

土壌図を最上位レイヤにした状態で、土壌図上の凡例を知りたい場所をクリックすると、凡例表示ウィンドウに対応する凡例が表示されます。本システムでは各営林局・地域で作成された紙の土壌図版（1000枚以上）をウェブマップ上で表示しており、土壌図版ごとに凡例が異なります（シームレスなマップではありません）。そのため、**画面のマップ上に表示された色と土壌型の対応を確認する際は、必ずクリックしてその地域（土壌図版）の凡例を確認してください。**

③表示サイズ変更バー

凡例の表示範囲の高さを変更することができます。マウスでドラッグして任意の場所でドロップすれば変更できます。

④凡例の詳細・原図へのリンク

詳細：凡例の土壌分類と現在の土壌分類の関係や、各土壌分類の解説へのリンクを別ウィンドウ（タブ）で表示します。

原図：表示されている地図の土壌図版（主に二万分の一）のjpg画像を別ウィンドウ（タブ）で表示します。画像ファイルは重いためダウンロードに時間がかかることがあります。

土壌図凡例説明画面の操作方法

凡例

BB 型土壌

Bd(d) 型土壌

Bd 型土壌

BE 型土壌

PDIII(II・Iを含む) 型土壌

PW(h)-III(II・Iを含む) 型土壌

PP 型土壌

G 型土壌

Im 型土壌(砂丘)

Er 型土壌

土層の浅い土壌

石礫の多い土壌

岩石地

土壌型界

--- 岩石地質界

a 沖積層

t-Hg 舟形層

t-Zz 新常禪寺層

t-Hk 第古口層

t-Kn 三草薙層

t-Ky 紀金山層

t-Nz 及位層

pt-cl 先第三紀粘板岩結晶片岩類

Mu 火山泥流

V 安山岩質火山碎屑物

An₃ 第四紀安山岩類

Ry 流紋岩類

Da₂ 鮮新～更新世石英安山岩類

An₁ 中新世安山岩類

B 玄武岩・粗粒玄武岩類

Pg 花崗班岩類

Gr 花崗岩類

gng 片状花崗岩～片麻岩類

●P5 試孔点位置および番号

●P7 代表断面および番号

地図名：秋田営林局鶴岡事業区土壌図（全5片の4）

旧営林局：秋田営林局

森林管理署：庄内森林管理署

旧行政地域名：東田川郡朝日村

調査年度：昭和40、41年

刊行年：昭和43年

説明書PDF：[ATRP34](#)

②土壌図版の基本情報

③説明書のリンク

地図上の標記	現在の土壌群	現在の土壌亜群	現在の土壌型	説明リンク	備考
BB	B	B	BB	BB	
BD(d)	B	B	BD(d)	BDd	
BD	B	B	BD	BD	
BE	B	B	BE	BE	
PDIII(II・Iを含む)	P	PD	PDIII	PD	PD I, PDIIを含む
PW(h)-III(II・Iを含む)	P	PW(h)	PW(h)III	PW(h)	PW(h)I, PW(h)IIを含む。
PP	Pt	Pp	Pp	Pp	
G	G	G	G	G	
Im(砂丘)	Im	Im	Im	Im	
Er	Im	Er	Er	Er	

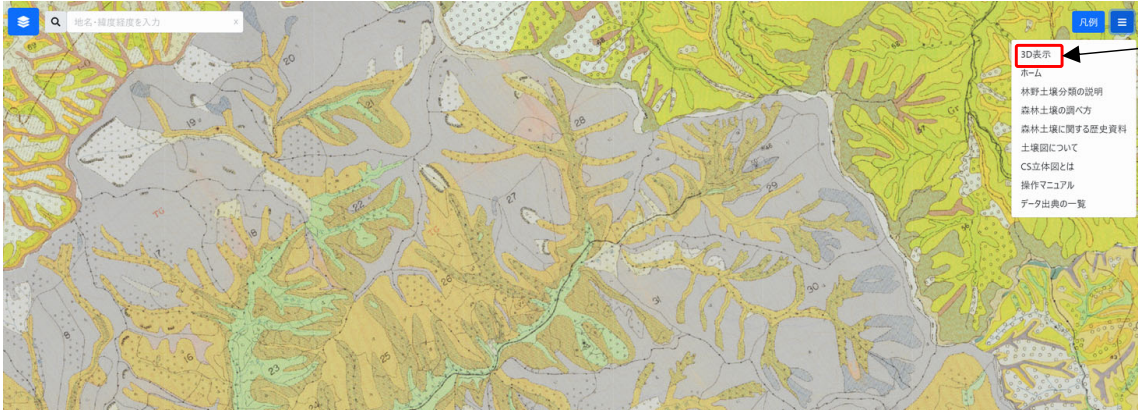
④地図上の土壌型と現在の土壌型の対照表

当サイトに関するお問い合わせは、soilmap@ml.affrc.go.jpまで

- ①凡例の拡大画像
画面上に表示された地図の凡例です。各土壌図版の凡例部分を切り取ったものです。地質等の付加的情報が含まれる場合があります。
- ②土壌図版の基本情報
各土壌図版の作成者や調査年度の情報が表示されます。
- ③説明書のリンク
各土壌図版に対応する土壌調査報告書（説明書）のpdfがご覧いただけます。土壌図版はこの説明書の付録となっており、**説明書本体には土壌図の作成の参考とした土壌断面や地域の土壌についての情報が豊富に記載されています。**ぜひ土壌図と合わせてご覧ください。※現在国有林のみ
- ④地図上の土壌型と現在の土壌型の対照表

土壌図は現行の分類体系「林野土壌の分類（1975）」（土じょう部、1976）より前に作られたものが多く、凡例には現行の分類体系にはないものがあります。そのため、この対照表では専門家の意見を元に現行の土壌型との対応を示しています。この対応関係は一意に決まるものではなく、地域・時代によって異なる場合もあるためご注意ください。現行の土壌群、土壌亜群までしか対応関係を示すことができない場合も多くあります。また、**説明リンクからは対応する土壌群・型の分布・特徴・代表断面写真などが参照できます。**

3D表示画面の操作方法



選択中の地図のうち、最も上に位置するマップを3D表示にする機能です。地図の中心点を中心に切り取ったエリアを3D表示にします。ズームレベル15まで表示可能です。



①操作方法ボタンと終了ボタン

操作方法を押すと操作方法マニュアルが表示されます。
3D表示を終了する場合は「閉じる」ボタンを押して下さい。



地図の回転はマウス左ボタンでドラッグ
(タッチ操作では1本指でドラッグ)
カメラの移動はマウス右ボタンでドラッグ
(タッチ操作では2本指でドラッグ)
カメラの前進・後退はマウスホイールの回転
(タッチ操作ではピンチインとアウト)



②左側 高さの誇張係数ボタン

高さを誇張して表示することができます。上向き矢印は誇張を大きく、下向き矢印は誇張を小さくします。○はデフォルト値に戻します。
右の回転ボタンは、地図の向きを北向きに戻します。

土壌調査地点DBの操作方法

土壌調査地点DB

地点ID N0190MBFS0037P005

土壌図版名: 前橋営林局郡山事業区土壌図 三片の内第一片

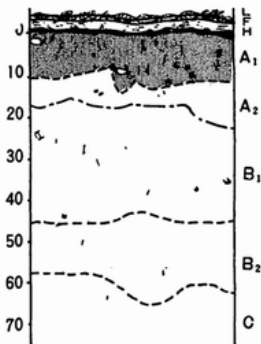
断面地 郡山

調査年 1963

土壌型_原報 BB

備考1 null

Profile 5 BB型



層位名	上端(cm)	下端(cm)	層厚(cm)	土色(原表記)	土色(Munsell)*	腐植	土性	構造	堅密度	水湿状態	根中	根細	砂(%)	粗砂(%)	細砂(%)	微砂(%)	粘土(%)	pH(H2O)	y1	OC(%)	N(%)	Ex_Ca(cmolc/kg)	備考2
L	-5.25	-4.25	1																				
F	-4.25	-1.25	3																				
H	-1.25		1.25																				
A1		12	12	黒褐色	7.5YR2/3	富む	SCL	粒状	軟	乾			56	37	19	15	16	5.58	2.85	6	0.36		
A2	12	19	7	暗褐色	10YR3/3	富む	SL	粒状	軟-堅	乾			63	46	17	16	12	5.96	0.55	3.5	0.18		
B1	19	47	28	褐色	10YR4/4	乏し	IC		軟-堅	潤			50	32	18	23	27	5.7	4.25	1.8	0.1		
B2	47	64	17	明褐色	7.5YR5/6		IC		堅	潤			22	6	16	40	24	5.02	41.15	0.4	0.01		
C	64	84	20	褐色	7.5YR4/6				堅	潤													

CSVダウンロード

土壌調査地点DBの表示について

土壌調査地点DBを地図として選択中に地図上の点（●）をクリックすると断面の概要が吹き出しに表示されます。灰色の点（●）は更新作業中です。吹き出しの中の『断面情報を表示』をクリックすると上記の表が表示されます。各地点で過去に調査された土壌断面の情報を示したものです。各項目の説明は以下の通りです。空白項目は未測定もしくはデータベース更新作業中のものです。

- 断面地：土壌図版の地域名称（事業区名）
- 層位名・層区分：土壌断面を土壌生成の特徴に応じて層位ごとに分けたもの
- 上端・下端：各層の深度。A0層（LFH）は負の値で示されています。
- 砂・粗砂・細砂・微砂・粘土：土性区分に必要な粒径組成の割合
- pH(H2O)：水抽出液のpH
- y1：交換酸度
- OC：有機炭素濃度
- N：全窒素濃度
- Ex-Ca：交換性カルシウム濃度

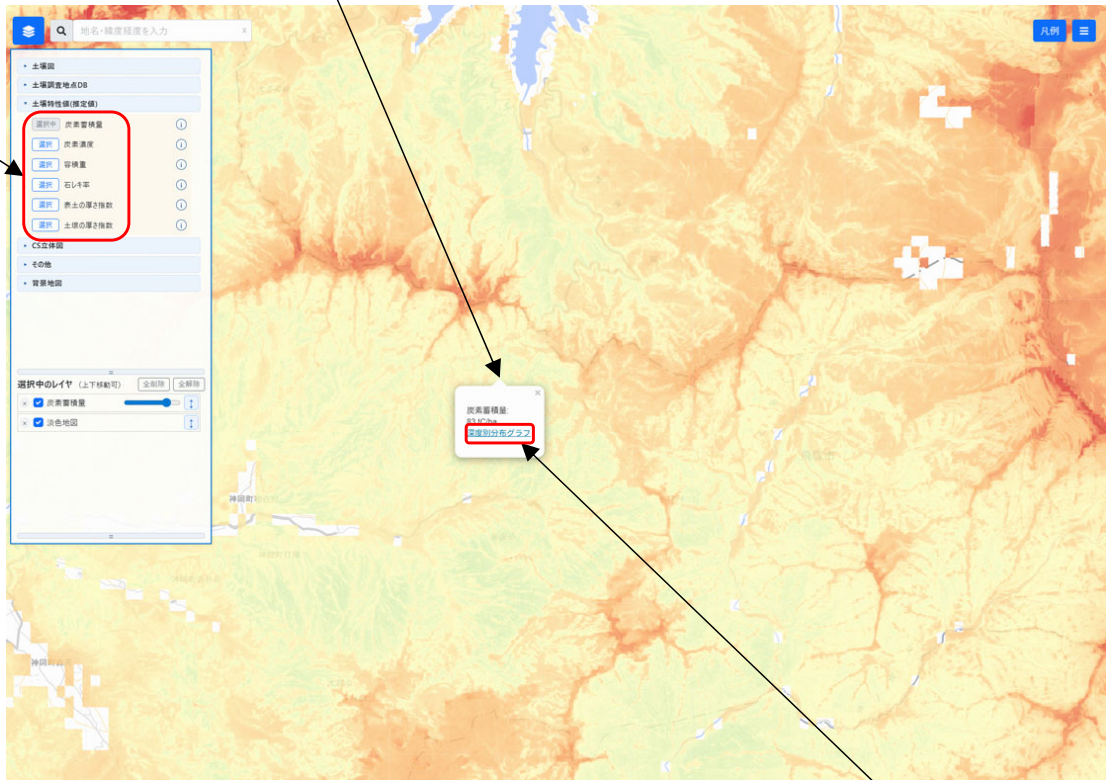
これらの値は『CSVダウンロード』からCSVファイルとしてダウンロードできます。

特性値マップ（炭素）の操作方法

土壌炭素蓄積量とそれに付随する特性値を表示します。3D表示も可能です。
但し、他のマップと重ねて見ることはできません。またズームレベルは15までの表示となります。

②指示地点の値の表示

①特性値の選択



③グラフの表示

①特性値の選択

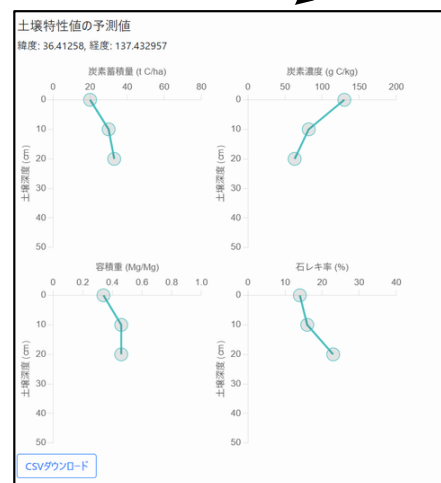
炭素蓄積量、炭素濃度、容積重、石レキ率、表土の厚さ指数、土壌の厚さ指数のうち1つのみ選択できます。

②指示地点の値の表示

クリック（タッチ）した地点の特性値の値を吹き出しに表示します。※表土の厚さ指数、土壌の厚さ指数では表示されません。

③グラフの表示（ズームレベル15まで）

②の『～グラフ』をクリックするとその特性値のグラフの深度別の値が表示されます。縦軸は土壌深度です。炭素蓄積量は0-5、5-15、15-30cmにおける総量、その他は各深度範囲における平均値です。CSVファイルでダウンロードも可能です。※表土の厚さ指数、土壌の厚さ指数では表示されません。



炭素特性値マップは森林吸収源インベントリ情報整備事業における森林土壌の調査データ（林野庁、2006～2011）を基に機械学習によって推定したものです。推定の手法やマップの持つ誤差についての詳細は[こちら](#)をご覧ください。利用規約に同意いただいたうえでご利用ください。